

# 会員募集

産・学・官で  
インフラロボを

育てます。

国土交通省では、労働力不足が懸念される中、今後増大するインフラ点検を効果的・効率的に行い、また、人が近づくことが困難な災害現場の調査や応急復旧を迅速かつ的確に実施する**実用性の高いロボットの開発・導入**の促進を進めているところです。

中部地方においてもこれらの構想の現場での実現に向け、**産・学・官の関係者が一体**となり、社会インフラ用ロボットに関する**情報交換**、ロボット産業と建設産業の**交流促進**、ロボット導入現場検証の支援等を行う「**中部圏インフラ用ロボットコンソーシアム(仮称)**」を**設立**します。

会員募集

コンソーシアムの設立趣旨・目的に賛同して頂いた法人または団体、個人の**会員を募集**いたします。設立趣旨・目的、会員募集要項は**中面**をご覧ください。

問合せ先

○コンソーシアム事務局  
(一社)日本建設機械施工協会中部支部  
【TEL】052-962-2394 【FAX】052-962-2478  
国土交通省中部地方整備局企画部施工企画課  
【TEL】052-953-8180 【FAX】052-953-9192

コンソーシアムについて詳細は・

中部インフラロボ

検索

# 「中部圏インフラ用ロボットコンソーシアム(仮称)」会員募集要項

## 1. 設立趣旨・目的

国土交通省では、労働力不足が懸念される中、今後増大するインフラ点検を効果的・効率的に行い、また、人が近づくことが困難な災害現場の調査や応急復旧を迅速かつ的確に実施する実用性の高いロボットの開発・導入の促進を進めているところです。

また、政府が2015年1月にとりまとめた「ロボット新戦略」においても、建設分野の重点分野として2020年までに「国内の重要・老朽インフラの20%においてセンサー、ロボット、非破壊技術等の活用により点検・補修を効率化する」と具体的な数値目標も示されたところです。

これらの構想の現場での実現に向け、インフラ維持管理の効率化・高度化の支援、被災調査支援、災害対応支援等を目的として、産・学・官の関係者が一体となり、社会インフラ用ロボットに関する情報交換、ロボット産業と建設産業の交流促進、ロボット導入現場検証の支援等を行う「中部圏インフラ用ロボットコンソーシアム(仮称)」を設立することとしました。

本趣旨に賛同していただき、活動に協力していただける方を、コンソーシアムの会員として募集いたします。

## 2. 活動内容

コンソーシアムの活動は上記の設立主旨、目的を達成するため、以下の活動を行います。

- (1) 産学官連携による現場ニーズとシーズとの情報交換
- (2) ロボット機械産業と建設産業との交流支援
- (3) ロボット関連技術等の講習会の開催
- (4) ロボット関連情報の収集及び情報提供
- (5) ロボットの現場検証の支援 等

## 3. コンソーシアムの構成

コンソーシアムは、公募による会員の他に、事務局及び中部地方整備局の職員で組織します。なおコンソーシアムの活動に要する費用は、各会員がそれぞれ負担することとします。入会金、会費の徴収は行いません。

## 4. 会員募集

コンソーシアムでは、上記の設立趣旨・目的に賛同する法人又は団体、個人の会員を募集いたします。コンソーシアムへの入会を希望されるかたは、入会申込書に必要事項を記入し、事務局まで送付してください。

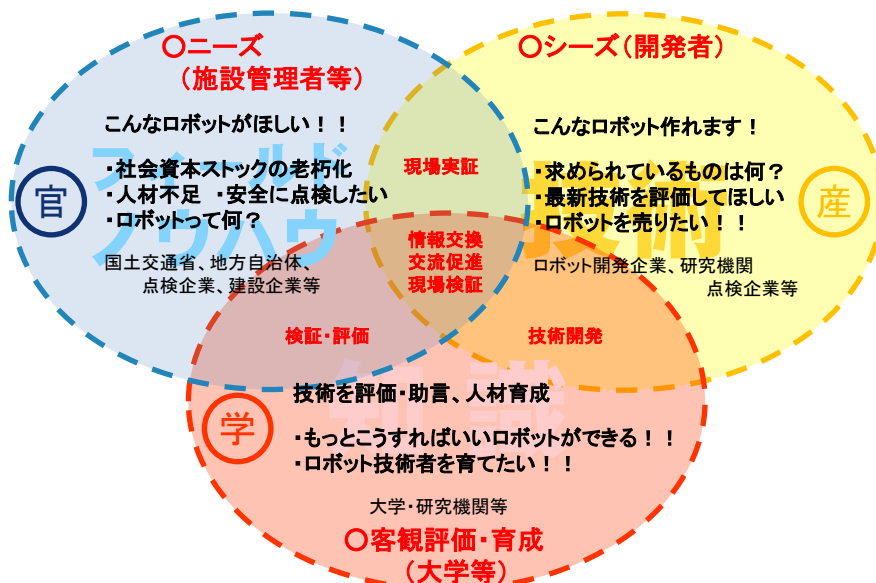
## 5. 応募・問合せ先

(一社)日本建設機械施工協会中部支部

【所在地】〒460-0002 名古屋市中区丸の内三丁目17-10三愛ビル5階

【TEL】052-962-2394 【FAX】052-962-2478 【e-mail】jcmacb@topaz.ocn.ne.jp

### ◆コンソーシアムのイメージ



～次世代社会インフラ用ロボットの開発・導入の推進～

今後増大するインフラ点検を効果的・効率的に行い、また、人が近づくことが困難な災害現場の調査や応急復旧を迅速かつ的確に実施する**実用性の高いロボット**の開発・導入を促進する。

施策背景・内容

●我が国の**社会インフラ**をめぐる**老朽化の進行、地震及び風水害の災害リスクの高まり**等の課題に直面している。

●ロボット開発・導入が必要な「**5つの重点分野**」(維持管理:トンネル・橋梁・水中、災害対応:調査・応急復旧)を策定し、これらに対応できるロボットを民間企業や大学等から公募し、**直轄現場で検証・評価**を行うことにより、**開発・導入を促進**する。

「日本再興戦略」改訂2014、「戦略科学技術イノベーション総合戦略」2014、「世界最先端IT国家創造宣言」等の政府方針での位置づけあり

次世代社会インフラ用ロボット開発・導入\_5つの重点分野

平成25年12月  
国土交通省、経済産業省公表

I 維持管理

① 橋梁

- ・近接目視を支援
- ・打音検査を支援 等



② トンネル

- ・近接目視を支援
- ・打音検査を支援 等



③ 水中(ダム、河川)

- ・近接目視を支援
- ・堆積物の状況を把握



II 災害対応

④ 災害調査

- (土砂崩落、火山、トンネル崩落)
- ・被害状況を把握
- ・土質、地質を計測
- ・トンネル内引火性ガスを把握
- ・トンネル内崩落状況を把握



⑤ 災害応急復旧

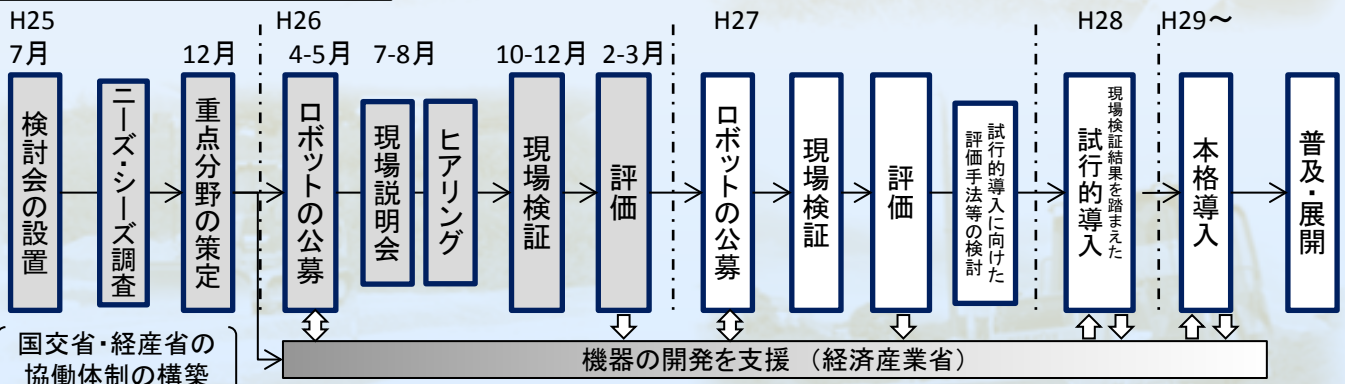
- (土砂崩落、火山)
- ・応急施工 (道路啓開、土砂撤去等)
- ・河道閉塞地の排水作業 等



施策効果

- 《安全確保》 人の立入が困難な現場における**迅速且つ的確なインフラ点検、災害対応**
- 《効率化》 **人の作業を代替・支援するロボットにより、点検作業の効率化**
- 《産業創出》 **国内外でのインフラ維持管理・災害対応に係る市場を創出**

実施フロー



現場検証地



平成26年度の現場検証件数

橋梁維持管理	33件 / 17者
トンネル維持管理	13件 / 9者
水中維持管理	19件 / 14者
災害調査	27件 / 19者
災害応急復旧	9件 / 6者
<b>合計</b>	<b>101件 / 65者</b>

現場検証等の実施状況

14現場において実施





## ○次世代社会インフラ用ロボットの例



※「次世代社会インフラ用ロボット技術・ロボットシステム～現場実証ポータルサイト～」より転載

## ○あいちロボット産業クラスター推進協議会の紹介

### 1. 設立趣旨

愛知県では、産学行政が連携し、ロボットの新技术・新製品を創出し続け、世界に誇れるロボット産業拠点の形成を目指すために、平成26年11月に「あいちロボット産業クラスター推進協議会」を設立しました。

ロボットの開発側と利用側双方が参画する3つのワーキンググループ（「医療・介護」、「製造・物流」、「無人飛行」）を立ち上げ、開発や実用化、普及に向けた具体的な取組を進めています。

### 2. 体制

会長：愛知県知事

委員・オブザーバー：18名（企業、大学、団体の有識者・代表者）

会員：ロボットの開発や利用に関心がある企業や大学、団体等（166社・団体；平成27年3月16日時点）

### 3. 入会申込・問合せ先

事務局：愛知県産業労働部産業振興課次世代産業室

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 / TEL 052-954-6352 / E-mail jisedai@pref.aichi.lg.jp

<http://www.pref.aichi.jp/0000078388.html>